

しもやま

支所だより Vol.187

下山地区データ	
人口	4,312人 (-107)
男性	2,148人 (-53)
女性	2,164人 (-54)
世帯数	1,674世帯 (-2)
10月1日現在 ()は前年同月比	

令和2年11月15日発行

移住女性が循環型農業に挑戦！ 夢は完全自給自足へ

地域記者の
突撃リポ〜ト



伊藤 みこ
(小松野町)

劇団・笑劇派でお山育ちのお茶の間アイドルとして活躍中
激辛唐辛子の「トリニダード・モルガ・スコピオン」を試食
させていただきました！
ヒ〜 >>

空き家情報バンクを利用して、神殿町に移住して来られた福山理江さんと苺安香織さんのお二人が、栽培期間中に農薬や除草剤を使わない、畑にも人にも優しい野菜作りを目指している「福えびすファーム」さんに行ってきました。



▲(左から)移住してきた福山さん、苺安さん

福山さんは下山に移住して3年目、苺安さんは昨年移住したばかり。せっかくだから田舎でできることをと、移住をきっかけに独学で野菜作りを始められたそうです。

福えびすファームさんのスタッフには、除草を担当するヤギの六くんと、肥料を担当するニワトリのコッコ軍団という力強い味方もいます！

六くんが畑の草を食べ、出荷しない野菜をコッコ軍団が食べて、出した糞が畑の肥料になって畑が力を蓄える。福山さんと苺安さんが野菜を育てて、美味しい野菜ができる。そんな素敵な循環を目指しているんですって！



▲おいしい野菜に、鳥獣被害もしばしば…

また、農薬を使わないので、虫との格闘は毎日。時には鳥獣被害にあつたりと、とっても大変。でも、そのおかげでこだわりの美味しい野菜ができるんだとか。

あ、そうそう！除草剤を撒かないので、どうしても雑草が生えてきますが、その生えてきた草を見ることで土の状態がわかるんですって。なるほど〜

福えびすファームさんでは、見たこともないような、おしゃれで、可愛くて、見た目も楽しいお野菜をたくさん育てています。

見た目が綺麗だからお弁当にも映えるし、可愛いので、食べずにしばらく飾っている人もいるのだとか。

下山の気候でゆっくりゆっくり育った野菜は味が濃くてとっても美味しいんです！

「いつかはお米も作って、完全自給自足ができればいいな。」
「下山の耕作放棄地が無くなったらいいのにな、そしたらもっと景色も綺麗だよ。」そんなわくわくする未来について、お二人とたくさんお話できました。



福えびすファームの野菜は、インターネットや香恋の館、山遊里で購入することができます。



しもやま支所だよりは豊田市ホームページからも見る事が出来ます。 <http://www.city.toyota.aichi.jp/>



編集・発行／豊田市役所下山支所／毎月15日発行／〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1/
TEL0565・90・2111/FAX0565・90・3344/E-mail shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp
地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を支所だよりに掲載しませんか！

空き家所有者の想い 移住者に託す

3年前に空き家情報バンクに登録し、空き家を提供した鶴田正^{つるただし}さん。現在は、岡崎市に夫婦で暮らしている。

思い入れのある家を手放したくなかったが、家に風を入れ、周辺の草刈等の管理が年々難しくなってきたことが登録の決め手になったとのこと。

登録から2年後に、表紙でも紹介した苅安さん夫婦と地域面談を行い、売却を決めました。「いい人が地域に入ってくれた。久しぶりに来てみたが、ちゃんと家が残っていて綺麗に管理されている、ふる里があるようでうれしかった。」と胸の内を明かしてくれました。

「家が管理できず朽ちていくよりも、住居として活用され、地域との関わりが持てる人が入ってくれた方が、ご先祖様もゆるしてくれるのでは。改めて空き家バンクに登録してよかった。」と語る鶴田さんでした。



▲空き家を提供した鶴田さん、家が活かされて良かった！

コロナ禍の制限の中、子どもたちの活動が少しずつ始まっています！



▲元気いっぱい園庭を駆ける園児ら

元気いっぱい！ こども園運動会

10月2日（金）大沼こども園、東部こども園で運動会が行われました。

新型コロナウイルス感染防止により外部関係者を変えた園の行事を見送っていましたが、運動会開催に向け、感染防止を徹底し、3密を避けるため平日開催としました。

久しぶりの園行事となり、園児や保護者らも元気いっぱい楽しんでいました。

巴川でアマゴの放流体験

10月6日（火）巴ヶ丘小学校の1・2年生19名がアマゴの放流体験を行いました。

この体験は、子どもたちに自然に親しみ、生き物を大切にする心を育もうと、巴川環境保全会が行ったものです。

始めに、愛知県水産課の職員からアマゴとアユの違いや、川に生息する生き物について学びました。次に、子どもたちは桶に入ったアマゴを観察したり触ったりし、アマゴの特徴を確認した後、およそ700匹のアマゴを巴川へ放流しました。

「アマゴがぬるぬるしていた。」「大きく育てね。」子どもたちは初めての放流体験を通じて、巴川や川の生き物への理解を深めていました。



▲緊張しながらもアマゴを放流する生徒たち「大きくなれ〜」

中学2年生 地区内で**職場体験学習**

下山中学校の2年生30名が、10月14日（水）から10月16日（金）にかけて、下山地区内の20か所の事業所で職場体験を行いました。

生徒が体験したい職場を選び、自分で事業所への受け入れ依頼を行い、公共交通機関や自転車などを使って職場に行きました。

津下ゆず穂さんは「将来、サービス業の仕事に就きたい。」という思いから「カフェこみさ」を選び、接客や料理の盛り付けを体験しました。

鈴木朝陽君、清水遥貴君は「車好きで、車関係の仕事に就きたい」「トヨタ学園に行きたい」と「下山自動車整備工場」で実際の車検の納車や整備点検を体験しました。

職場体験をした中学2年生は、これから社会の一員として自分たちの就きたい職業に向かって「働く」ことを実体験できる良い学びの場となりました。



▲丁寧な接客で♪「お・も・て・な・し」



▲そろいの作業服、雰囲気が出ます！



▲人口減少の課題について熱く語る川合さん

下山について学ぶ **地域学習会・見学会**

下山中学校の1年生36名が、9月30日（水）授業の中で、地域学習会として地域の実態把握を行いました。

講師として、社会福祉協議会下山支所の鈴木雄介さんが、地域の現状や巴ヶ丘小学校へ統合された経緯を、里楽暮住しもやま会の川合秀樹さんが、人口減少などの課題に取り組むための定住対策と今後のまちづくりの進め方についての説明を行いました。

10月15日（木）には、同学年がスクールバス2台で、下山地区内にあった旧小学校や三河湖などを巡る地域見学会を行いました。

車内では地域の案内役として里楽暮住しもやま会が参加し、旧小学校当時のエピソードや地名の由来などを、三河湖では、安藤忠司さんが、「三河湖の底に今も昔住んでいた家がある」など羽布ダム建設時の思い出や三河湖についての話を聞くことができました。

また、香恋の館では、下山村の歴史の年表から下山のルーツを学んだり、現在建設中のテストコース内に入るといって貴重な体験ができました。

「行ったことはあるけど、下山の知らないことがまだまだあった。」と実際に聞きすることで、より下山を知る機会となりました。



令和2年度 わくわく団体の活動紹介

- 団体名：花一・よらまい会
- 事業名：花山わくわく広場
- 代表者：加川政代（花沢町）



▲代表の加川さん

花山わくわく広場事業は、花沢一組に住む加川政代さんが「高齢者や小さいお子さんを持つ親子などが、もっと気軽に集まれる場所が欲しい！」という想いで始まりました。同組の鈴木さち子さんと同じ想いに意気投合し、「よし、やろう！」と仲間を集め、わくわく事業へ申請しました。

広場の場所は、易往寺横の昔ゲートボール場だった場所。所有者の方に事業の趣旨を説明したところ、快く場所を提供していただけました。

広場は、子どもたちが安心して遊べるようフェンスで囲み、砂場や日除け、気軽におしゃべりできるベンチを設置する計画。

今年度は、広場の整備と活用に向けた広報活動を中心に行い、来年度以降はフェンスなどを順次整備していく予定。

広場整地後にイノシシが入ったようで、当面の課題は、広場を維持するためのイノシシ対策と草刈になるとのこと。

「花沢一組以外の下山地区の人も気軽に利用できる広場にしていきたい。」と加川さんらの地域を想う活動が始まります。



▲役員メンバーと花山わくわく広場の様子

お知らせ information



ラリー開催及び 通行止め情報

11月21日（土）「JAF 公認アルペンクラシックカーラリー」開催のため、ラリールート及び羽布地区の一部の区間が一時通行止め（10時～13時40分）となりますので、ご注意願います。

なお、通行止め予定時間が変更される場合もありますので、最新の情報は、予告看板等でご確認ください。

なお、下山地区の方は無料で観戦することができます。



シルバー人材センター 新入会員募集中！

あなたの空いた時間を活用しませんか？

- 入会要件 下山地区在住でおおむね60歳以上の健康で働く意欲のある方
シルバー人材センターの理念に賛同していただける方
- 仕事内容 下山地区の草刈り、草取り、剪定、施設清掃が主な仕事です
- 入会方法 随時入会説明を行います。下山憩の家の事務所までお越しください。
- 問合せ先 豊田市シルバー人材センター下山支所（下山憩の家）
電話 91-1221（午前8時30分から午後5時）土日祝日除く



通常年会費 2,000円
入会初年度に限り
500円!!

下山交流館 まなびのひろば

豊田市下山交流館

開館時間：午前9時～午後9時

(図書の貸出・返却は午後8時まで)

休館日：月曜日(祝日、振替休日を除く)・年末年始

連絡先：TEL0565-91-1650/FAX0565-91-1030

ホームページ：<http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

指定管理者：公益財団法人豊田市文化振興財団



事業報告

くらふとサロン

Vol.2①

カルトナーージュ体験

10月20日(火) 参加者 7人

ヨーロッパ生まれの厚紙工芸品カルトナーージュのリボントレイと星型トレイの2種類作製しました。



【講師】花沢町
宮崎エリカ氏

＜参加者の感想＞

- ・2回目の参加ですが、とても楽しかったです。
- ・ぜひまたカルトナーージュの講座をお願いします。
- ・布選びから、どれを組み合わせるかワクワクしました。完成した時は達成感と満足感で一杯でした。

完成作品！



お知らせ



これからのロビー展(予定)

11月	木花器の雅屋(大沼町)	木工
12月	グループホーム下山の森	工作
1月	手編みサークル (自主グループ)	手編み
2月	なごみの会 (自主グループ)	パッチワーク
3月	杉澤周子(下山田代町)	布草履

これまでのロビー展

出口彩夏
(手作り小物)



悠遊
(木彫)



アトリエエリカ
(カルトナーージュ)



次井みな子
(手づくり雑貨)



吉田嘉尚
(ラリーコレクション)



次井侑加
(手づくり雑貨)



下山中学校職場体験！

10月14日(水)～16日(金)



下山中学校2年生の大橋彩乃さん、熊谷健斗さんが、リサイクル図書の準備や図書掲示板の飾り付け、書架整理、事業の下見などを体験しました！

受付や図書の貸出も“笑顔”で頑張りました！

【体験を終えて】



誰かのために働きたいと思いました。(大橋彩乃)

学校では体験できない『仕事の大切さ』を学ぶことができました。下山のために働かされている方々を見て私も何かのために、



僕が学んだことは、やはり下山が好きだということです。こういうコロナの状況でも、下山を盛り上げようとするのがすごいなと思いました。自分も下山を大事にしたいと思いました。

(熊谷健斗)



怖いお話

眠仙坊(天仙坊とも)

絵と文 ながむらひり

昔、神殿の日折峠から東へ下った山に大悪人と呼ばれた悪行坊主眠仙坊を埋めた墓があった。そこには大悪人眠仙坊の頭だけが埋まっておこな。胸は羽布(高野ちやう人もあるが)足は菅沼に埋めてある。だと言ひ山とる。恐ろしいお話だよ。
大正の頃までは、神殿の墓は、錆びた刀がぶすりと刺さってあって、子どもだった大祖父さんはおかかったと云うな。ころころ転ぶと立ち上られなくなる。祟(まが)られるぞと。



村の衆は眠仙坊の祟りをびっぴと恐れて来た。

「ころころかた、昭和になつて道の工事(こうじ)で墓が邪魔(まが)になつた。

「腐(く)つて祟(まが)らぬとも嫌(きら)いだ。」

「そんな悪い奴の墓、まだ供養(くやう)せにやいかしのか？」

「すると静かに聞(き)いてくたさいと云(い)つた話(はなし)が出(で)た。

「ほいでもなぬ、どんな悪徳(あくとく)だつて可愛(かわい)い赤子(あかこ)で生まれただぜ。誰(たれ)にも可愛(かわい)がつても

いらして人を恨(にく)み、悪(あく)に転(ま)じた挙(あ)げ句(く)に殺(ころ)さぬ、殺(ころ)さしても別(わか)けて埋(う)めらる程(ほど)悪い

奴(やつ)だと怖(こ)がらぬ、今(いま)もまだ嫌(きら)い山(やま)とる。救(すく)わぬん仙(せん)さんだぞ。せめて手を合(あ)わせて

共同墓地(きょうどうぼち)に葬(まう)り直(なお)してやるまいぞ。」

神殿(かみでん)では昔(むかし)から毎年(まいねん)、説教所(せつかうじょ)に村中(むらぢゆう)が集(あ)まり、行き倒(よこた)れの無縁(むえん)の者を、無縁(むえん)者(もの)様(さま)

と呼(よ)び供養(くやう)して来た。その昔(むかし)、神殿(かみでん)の馬喰(うまぐし)が身元(みもと)不明(ふめい)の行き倒(よこた)れに心を寄(よ)せ、自分の

山(やま)に葬(まう)つてやつた墓場(ぼちやう)に眠仙坊(みんせんぼう)の墓(ぼ)もあつた。

皆(みな)の心が決(き)まり、大役(だいやく)の三人(さんにん)が墓石(ぼいし)を背(せ)に負(お)んで峠(とうげ)の共同墓地(きょうどうぼち)まで運(は)び、葬(まう)り直(なお)して

やつた。その時(とき)から、祟(まが)らぬたという話(はなし)は聞(き)かなくなった。眠仙坊(みんせんぼう)に人の

祟(まが)らぬたという話(はなし)は聞(き)かなくなった。眠仙坊(みんせんぼう)に人の



「このお話(はなし)の關(かん)する場所(ばしょ)を調(しら)べてみると羽布(はふ)ではどのにもお話(はなし)が伝(つた)わらぬ。高野(たかの)にあると言(い)わぬ方が何(なに)人(ひと)かおらぬ。ころころかた、分(わか)らぬ。高野(たかの)でも野原(のら)でも聞(き)いたことか、分(わか)らぬ。高野(たかの)の場所(ばしょ)は羽布(はふ)から山道(やまぢゆう)を歩(あ)りてぬける道(みち)沿(よ)い、いとお分(わか)つた。けいぞ、今は集落(しゆらく)が無(な)くなつて、場所(ばしょ)がまじりと分(わか)らぬ。いままです。」